



R I. 第2620地区 静岡第2分区
三島西ロータリークラブ

週報

第1935号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市梅名393-1 プケ東海三島
TEL(055)984-0120
会長 野田 和秀 幹事 平出 利之



広重版画より 三島 朝霧

第1998回例会

2013.10.10晴
於: 昭明館

司 会 遠藤正幸君

会長挨拶

会長 野田和秀君



皆様今晚は。先日の見晴フェスティバルへの奉仕活動ご苦労様でした。こここのところ社会奉仕活動が続きましたが、ひと段落つき委員の方々もホッと一息かと存じます。

本日は、来る2000回例会を記念しての映画上映会を後に控えての1998回目の例会です。この前お話ししましたように、40周年を迎えますと2000回例会はすぐに巡ってまいります。やはりその回数、重みは会長になって一層ヒシヒシと感じます。歴代の会長・幹事の労苦に思いを致すと共に、温故知新といいますが、気分を新たに次の大台に向けて再スタートしたいものです。ロータリーの一番看板であります職業奉仕の月間にこの記念すべき2000回目の例会を迎えることも何か示唆的であります。

私の個人的なことで恐縮ですが、就職のため兵庫県の姫路から沼津に降り立った昭和47年に三島西RCが創設され、以来41年余りが経過し、例会が2000回目を迎えるこの時点でクラブ会長を仰せつかっていることが何か不思議な気がします。そして本日上映の「東京物語」の中で、尾道から息子や娘を訪ねて上京したけれど、厄介者的に熱海の温泉に行かされた老夫婦が熱海の防波堤の上で並んで会話する映像が今も鮮やかに目に焼き付いています。丁度60年前に製

作されたこの映画を何歳の時初めて観たかははっきり憶えていませんが、40年前の我が身の上とが何かオーバーラップしたような、親子の心情の点で忘れ難い思い出となります。

昨年の8月に皆様にこの映画を見ながら家族例会など如何でしょうか、と提案し賛同を得て今日このような形で実現しました。やはり言うてみるものですね。私にとってはこれは自己満足と言われようと、これこそ「ロータリーモメント」といってよいでしょう。皆様に心から感謝申し上げます。最後になりましたが、会場のこと、著作権のこと等々で、平出幹事には大変お世話になりました。本当に有難うございました。



出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	37/47	78.72%	41/47	87.23%
今回	36/48	75.00%	会員総数	53名

欠席者 石井(良)君、大畑君、窪田君、佐々木君、鈴木(正)君、諏訪部(照)君、登崎君、長田君、花房君、前田(房)君、森崎君、米山君

幹事報告

幹事 平出利之君

- ①10月の第3例会は18日(金)ですので、間違えぬ様にお願ひします。
- ②渡邊雅晃さんが体調不良により、しばらく休会します。

2013~2014年度
国際ロータリー会長
ロン D. パートン

ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を

東京物語鑑賞



感想

「東京物語」を見て

遠藤正幸君

楽しいプログラム ありがとうございます。

幸せってなんだらう。改めて考えさせられました。「幸せって、感謝の気持ちを持つこと」そんな気がしました。今回は、女房と結婚が決まった二女と一緒に見る事ができました。終了後

3人でおいしい料理とお酒を楽しみながら、今日の映画の話をし幸せなひと時を持つことができました。

東京物語を観て

諏訪部敏之君

久方ぶりに良い映画を観ました。昭和28年の作というと私
が16歳、高校1年の時です。画面に映る当時の風景が懐かしく、知らぬ間に当時にタイムスリップしている自分に気が付きました。

小津監督の作品は、ストーリーのスローテンポな展開と役者の台詞回しが単調であることを知っていましたので、恐らく上映中に眠ってしまうのではないかと、足が伸びて、頭が背もたれに付けられるシートに座りましたが、眠ることもなく最後まで観てしまいました。やはり名作なのでしょうね。

内容については、実の子供達と戦士した息子の嫁、即ち、肉親と他人が老父母の上京に際して、どのように接したかを描いたものですが、60年前と比べて現在はどうか?と考えてみましたところ、今も昔も変わらないと結論付けました。

その他で気付いたことをいくつか挙げますと、先ず、永遠の美女と言われた原節子が、目鼻立ちがはっきりしていて、意外に現代的な顔をしていたこと、東京、尾道間が汽車で15時間掛かることが会話の中で分かったこと、尾道、大阪間が蒸気機関車であったこと、亡くなった老母が67歳とかで、私より9歳も年下と分かりショックを感じたこと、などが挙げられます。

しかし、最もショックだったのは、映画が終わって会場を出た時に、小野金弥さんが「随分スローテンポな映画だったな」と言われたことです。あの映画を観られて、スローテンポと感ずるようでは、まだまだお若い。ご健在。おじいちゃんに脱帽!

東京物語を見た感想

平出利之君

60年前の1953年に公開された映画ですが、私はまだ生まれておりません。

映画の冒頭、蒸気機関車・黒の瓦屋根・何本もの煙突等ビックリする景色でした。家の中の掃除も、雑巾がけや掃き掃除を見ると、60年という月日が文明の進歩を感じさせられました。

年老いた夫婦とその子供達の人間模様が描かれた作品ですが、この人間の一生は昔も今も変わらず、生活の生きざまからくる寂しさを感じました。核家族がこの事を物語っています。個々の生活を尊重するという事になると思います。

この映画は、世界の映画監督358人が投票で決める最も優れた映画に選ばれた作品だそうです。この様な映画を紹介してくれた野田会長に感謝申し上げます。

映画鑑賞観想文

澤村康子君

小津安二郎生誕110年ということで世界中から高い評価を得ている。(東京物語)を長年観ていなかった映画を再びこの歳になって観てみますと以前には気付かなかった数々の感動がありました。

まず目に入ってきたのはそのローポジションでのカメラ目線とヒトコマヒトコマの額縁のような美しさとなつかしさ。私はまだ尾道には行ったことがないのですが、こんなのどかで静かな美しいところで余生を送れたらと想像してしまいました。出演者はこれぞ適役とばかりよくぞ選んだと感心します。特に周吉と紀子の最後の絡みは、笠智衆はこの時49歳だったということですが、その渋い演技は紀子の偽善だったと言う告白に最大限の笑顔で励ますところなどまさに日本の男であり、父であり夫であってほしいと願わずにはいられません。又出演した四人の女性達も、まさに日本の女性を象徴する大和撫子と言わざるをえません。つまり、清楚で凛とし、慎ましやかで、一歩引いて男性を立て尽くす、かいいい女性……反省します。

原節子は小津監督の死とともに彼女自身もその姿を消してしまったと言う伝説の女優とされていますがそれだけに素敵な女性ですね。

秋の夜長を心洗われるこの映画をじっくり鑑賞する、こんな企画をされた野田会長にエールを送りたいです。